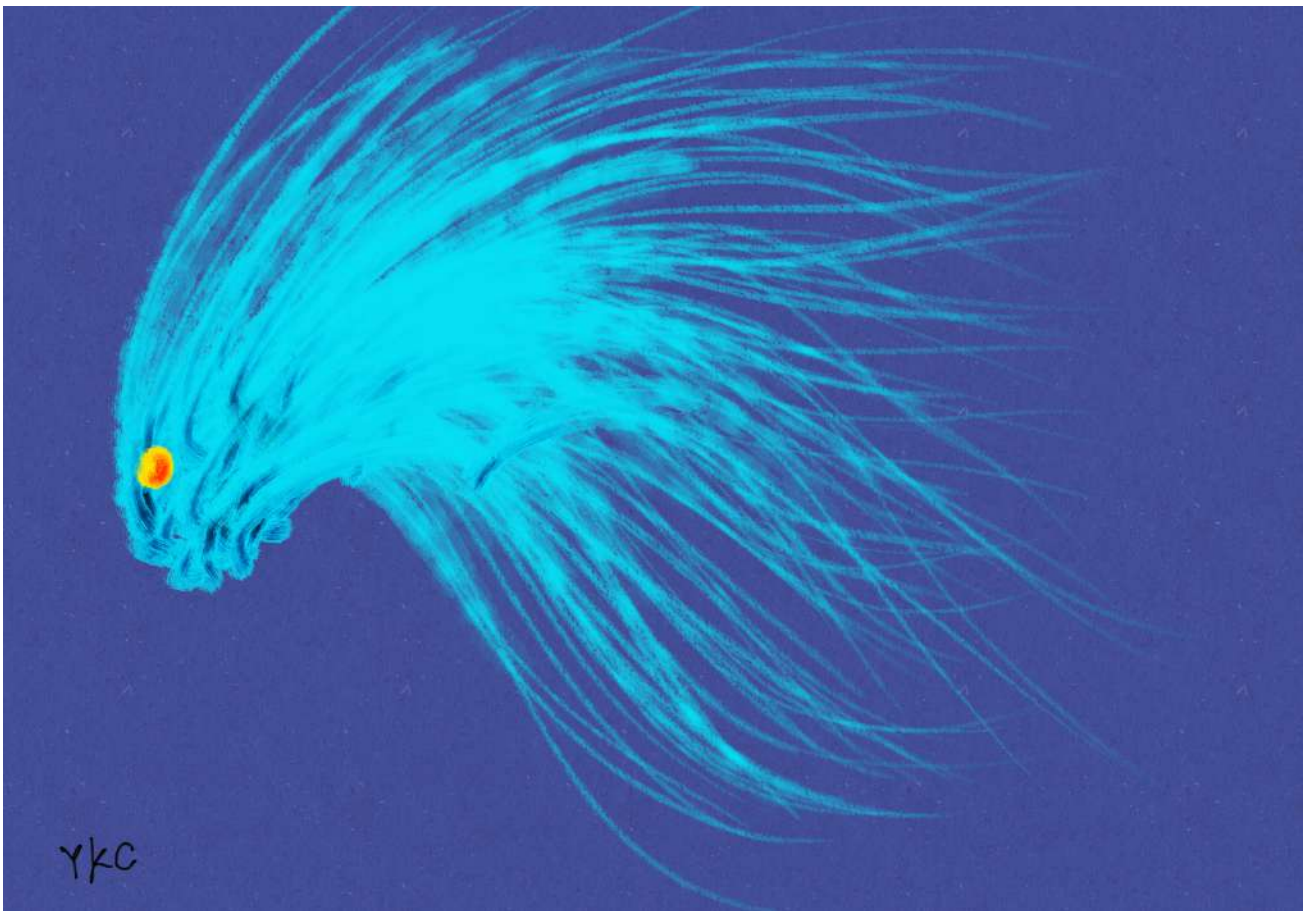

発達理論の学び舎

Back Number: Vol 290

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」



No.155 夕暮れ時のそよ風の精霊_A Sprit of a Twilight Breeze

目次

- 5781. 今朝方の夢
- 5782. アテネ旅行の予定変更を終えて
- 5783. 今朝方の夢
- 5784. ふとした回想
- 5785. 夕焼け空を眺めながら
- 5786. 五輪出場と新興宗教団体に関する興味深い夢
- 5787. 感謝の念と就寝前の過ごし方
- 5788. ふとした考え事
- 5789. 今朝方の夢
- 5790. 雨上がりの夕方に
- 5791. 今朝方の夢
- 5792. 人それぞれの固有な旅・永遠の旅
- 5793. 昨日を振り返っての
- 5794. 今朝方の夢
- 5795. 悪を見極め、悪を保持すること
- 5796. 今朝方の夢
- 5797. 深まる仮眠の治癒力と氷解した謎
- 5798. 満月の光を浴びながら:今朝方の夢
- 5799. 身体運動的・生理的性質を持つ表現物
- 5800. 祝日の微笑ましい二つの光景より

時刻は午前6時半を迎えた。今朝もまた、いつものように小鳥たちが近くで鳴き声を上げている。稀にはあるが、小鳥たちが書斎の窓辺にやってきて、一休みすることがある。久しぶりに彼らの姿を近くで見たいものである。

それでは、今朝方の夢を振り返り、そこから1日の創作活動を始めていきたい。夢の中で私は、巨大なタワーの中にいた。そこはオフィスビルのようにありながらも、複合施設として、レストランやショッピングをする店などが入っていた。

広い会議室のような場所で、小中高時代の友人(TK)と話をしていた場面があった。そこで私たちは、裁縫か何かの手を使う細かい作業をしていた。その場には見知らぬ人がその他にもたくさんいて、その作業が終わった人から次々と部屋を後にして行った。その後、何かのきっかけで、見知らぬ若い日本人女性と知り合った。その小柄な女性は温厚そうであり、優しい性格の持ち主であった。また日を改めて会う約束をし、一旦その場で別れた。すると、その建物の下のフロアでまた再会したのだが、その時にはなぜかもう彼女の名前を忘れてしまっていた。

彼女の隣には小中学校時代の女性友達がいて、少しばかりその場で2人と立ち話をした。失礼を承知で、正直に彼女の名前を忘れてしまったことを告げ、もう一度名前を教えてもらうことにした。その後、私は再び上のフロアに向かった。すでに昼食を済ませていたようだが、弁当屋に立ち寄り、今後のためにどのような弁当が販売されているのかをチェックすることにした。この建物で働いている人には高級取りが多らしく、弁当の価格も高額なものがあつた。5,000円や10,000円ほどする弁当も売られていて、それらは食材にこだわっているようだった。弁当屋の店員の中年女性に声をかけられ、弁当の購入を勧められたが、私は弁当を購入するのではなく、お土産に和菓子でも購入しようかと思った。そのような場面があつたことを覚えている。

そう言えば、友人と裁縫のような作業をしている時に、近くに今毎日視聴しているアメリカのテレビドラマの男優が2人ほどいた。彼らはテレビドラマの世界と同じく、CBIの捜査官であり、どういうわけか日本語を話すことができた。そこでお互いの給料の話となり、友人は管理職になったことに伴い、逆に残業代がつかないが故に給料が下がったとのことだった。夢の中の私も組織に雇われている身

であったが、2人のCBIの捜査官が驚くほどの給料を得ているようだった。彼らにとっては、私の仕事内容と勤務時間からしてみると、そのような高額な給料は信じられないとのことだった。

最後の場面として、この一風変わったタワーから自宅に戻ると、そこは駅と直結しており、駅はオランダの雰囲気があった。実際に私は、フローニンゲンに戻ろうとしていた。切符を券売機で購入しようとした際に、オランダ語表示にしていたため、入力を誤ってしまった。その後、数回ほど入力を誤り、そこからは英語入力に切り替えたが、それでもGroningenのスペルを打ち間違えてしまった。

このままでは列車の時刻に間に合わないかもしれないという焦る気持ちを抑え、一度冷静になってようやく切符を購入することができた。しかしながら、合計で11個ほどプラットホームがあり、どこのプラットホームに行けばいいのかわからず、電光掲示板にフローニンゲン行きがなかったため、駅員に聞こうと思った。そこで夢から覚めた。フローニンゲン:2020/4/28(火)06:57

5782. アテネ旅行の予定変更を終えて

時刻は午後7時を迎えた。天気予報の通り、夕方から小雨が降り始めた。今もかすかに霧のような雨が降っている。明日の昼まで断続的に小雨が降るようだ。今日は午後に時間を作って、ギリシャの航空会社に電話をした。昨日は回線が混み合っていたが、今日は無事に繋がり、フライトの変更をしてもらった。こちらの希望通り、6月末にアテネに行くフライトを確保することができた。アムステルダムを正午に出発する行きのフライトと、アテネを昼過ぎに出発する帰りのフライトを確保した。

欧州国内の旅行の際には、いつもその時間帯のフライトで旅行しており、今回もいつもと同じような時間帯に動けることを有り難く思う。フライトを確保した流れでホテルにメールをしたところ、先ほど早速返信があった。この間も再予約をしてもらったために恐縮だったのだが、今回も親切に予約を変更してくれた。今回宿泊するのは、Electra Hotel Athensというホテルであり、ホテルのホスピタリティにはとても感謝している。このホテルの近くにはオーガニックスーパーが2店ほどあり、アクロポリスも歩いてすぐである。また空港からのシャトルバスの駐車場も近く、とてもお勧めなホテルである。

今日はその他にも、かかりつけの美容師のメルヴィンに連絡をした。明日に髪を切ってもらう予定だったのだが、果たして本日から営業を再開したのかを確認してみたのである。すると、オランダ政

府から通達があり、5月20日まで店を開けてはならないそうだ。それを破ると罰金が科せられるとのことである。コロナの影響はこうした接客業にも如実に現れている。表立ってビジネスとして店を開けると罰金が科せられるが、例えばメルヴィンの家かどこかで髪を切ってもらえないかと打診を試みた。それぐらいに髪の毛が伸びているし、メルヴィンとも会話をしたいと思っていた。その打診に対するメルヴィンからの返信を待っている最中であり、もしダメなら少しばかり自分で髪を切る必要がありそうだ。さすがに5/20日まで伸ばしっぱなしにはできない。コロナウイルスが思わぬ点で不便を引き起こした。コロナウイルスの蔓延は、本当に誰も幸せないしないと改めて思った。

今日はこれから、曲の原型モデルを作ろうと思う。それは明日の作曲実践に向けた準備である。過去の偉大な作曲家の楽譜を写譜し、それをもとに曲を作ろうとすると、当然ながら大抵の場合は彼らの方が素晴らしい音色を生み出しているのだが、全てがそうとは言えず、文章で言えば、一単語や二単語ぐらいは自分の語彙の範囲にある単語を選択した方が、自分にとって納得感があることに昨日気づいた。

そうした語彙を大切にしていくことが、自分の作曲言語の確立につながっていく。巨人たちの肩を借りさせてもらいながら、彼らの言葉に納得感が得られない部分は自分の語彙を適用し、徐々に語彙を超えて、フレーズや文章全体を自分の言語体系で構築できるようにしていく。そうしたことが大切だ。というのも、確立された自分の言語体系こそ、自分にしか表せない音の世界だからである。これは何も音の世界だけではない。その人にしか現すことのできない言葉の世界や絵の世界があるのである。それを大切にしていこう。そうした世界を見いだして初めて、固有性と多様性が実現される。それが見出せなければ、固有性は消失し、豊かな多様性も生まれない。フローニンゲン:2020/4/28(火)19:31

5783. 今朝方の夢

時刻はゆっくりと午前5時を回った。今朝の起床は午前4時半であり、その時にはもう小鳥たちが鳴き声を上げ始めていた。いつもより気持ち早く小鳥たちが鳴き始めているように思う。彼らも季節の進行に合わせて行動を変えているのかもしれない。

雨上がりのフローニンゲンの早朝の静けさ。今風は無く、雨も降っていない。

午前中に少し小雨が降るようだが、午後からは雨が止むとのことなので、夕方近くになったら、街の中心部にあるコーヒー専門店でコーヒー豆を購入し、その足でオーガニックスーパーにも立ち寄りたい。いくつか購入する必要のあるものがあるため、それらは携帯にメモしておこう。

昨日は無事にアテネ旅行の予約の変更を終えた。予約を変更したのは今回で2度目である。今度こそアテネの地に足を運ぶことができることを祈る。欧州各国の様子を見ていると、6月末であれば事態はかなり落ち着いているように思われるため、今度はアテネに行けそうである。

昨日、オランダのアマゾンから書籍が届けられた。ここ最近では意識的に書物から距離を取っているのだが、来月中旬から始まる「一瞬一生の会:第二期」の開催に向けて、課題図書であるその書籍を読んでおこうと思う。今回から、デザイン思考と創造性に関する英文書籍を一冊ほど追加した。デザイン思考にせよ創造性にせよ、それらは私の関心テーマの一つでもあるため、今からそれを取り上げることが楽しみだ。本書は今週末にでも一読をしておこう。

日々比較的こまめに日記を綴っていると思うのだが、メモしている事柄を日記として書き留めていくことが全く追いついていない。それぐらいに、毎日いろいろな考えが脳裏に浮かぶ。

昨夜はふと、自分の活動エネルギーの量と質は4~5歳ぐらいのものなのだから、その当時と同じような生活リズムにするのが良いかと思い、就寝時間をさらに早めようかと考えた。以前から10時前には就寝をしているが、ここ最近では気持ちさらに早く就寝するようにしている。就寝準備をし始めるのが以前よりも15分ほど早くなり、それによってさらに深い休息が取れているような気がする。そのおかげで朝から晩までの創作活動に思う存分従事することができているように思われる。夕食後に曲の原型モデルを作ることがひと段落し、少々絵を描いたら速やかに休息すること。それを今後も心掛けたい。

今朝方もまた夢を見ていた。ただし、その記憶が随分と薄れている。夢の中で私は、小学校の高学年の時にやっていたRPGに登場するキャラクターたちと一緒にこの世界を冒険していた。最強の剣を探しに行ったり、難敵を倒しに行ったり、大事な祭りに参加したりしていた。印象に残っているのはその祭りである。それは結婚を祝う祭りのようであり、山奥で開催された。現代のような結婚の祝い方ではなく、今から数千年前の結婚の祝い方をしており、古代の儀式的な雰囲気が漂っていた。

私は、その結婚式を取り仕切る女性のキャラクターに話しかけ、その儀式的な式の歴史について教えてもらっていた。

そのような夢の場面があった。その他にも夢を見ていたことは覚えているのだが、内容については忘れてしまっている。心を静かにして、忘れられた記憶を辿るかのように、もう少し夢について思い出してみようと思う。フローニンゲン:2020/4/29(水)05:37

5784. ふとした回想

時刻は午前10時を迎えた。早朝の5時頃から創作活動に入り、今に至る。

風が一切なく、穏やかな世界が目の前に広がっている。空一面薄い雲に覆われているが、今は雨が降っていない。予定通り、午後には街の中心部に買い物に出かけていこう。

時折、これまでの欧州の旅の思い出がふと思い出される。先ほどは、ブダペストのバルトーク博物館を訪問した時のことが思い出された。ここは入場料を払えば、別途料金がかかることなくガイド役の方が館内を案内してくれる。ちょうど私の前に、ハンガリー大使館に勤める日本人の方が訪問していて、その方が館内を見学した後に私の番になった。

待ち時間は博物館の売店にいて、そこで気さくな若い男性店員と日本やハンガリーについて話していたことが懐かしい。彼もそうであったが、ヨーロッパ人の中には、日本を訪れることを生涯のやりたいことリストの中に入れていた人が結構いて、彼らにとっては日本を訪れることが夢のようなことだとのことである。私にとっても、諸々の意味において、日本を訪れることは夢のようになっている。日本に滞在中は、まるで夢の世界にいるような感覚が絶えずあるのだ。あの感覚の正体は一体何なのだろうか。おそらく今年の秋に一時帰国する際にも同様のことが感じられるに違いない。

人間社会の背理的側面を眺める視点に立てるかだろうか。そうした能力と在り方が求められる時代にますますなっている。そのようなことを先ほどふと考えていた。先日、協働者の方から聞いた話によると、日本では「コロナ離婚」や「コロナ鬱」という現象が見られるようになってきているとのことである。オランダでそのような言葉を見聞きしたことはなく、オランダ人のコロナとの向き合い方は日本人のそれとは幾分異なるように思われる。日本人の家族感や働き方はやはりオランダ人のそれとは

随分と異なっており、今回の一件で、いきなり家の中に家族全員がずっといるというようなことに慣れておらず、それによって様々な問題が生じているようだ。

オランダでは家族と過ごす時間が長く、以前フローニンゲン大学のイノベーションセンターで研究員をしていた時のアドバイザーのトムは、仕事を3時ぐらいで切りやめ、早々と自宅に帰っていた。何やら、5歳の双子の息子と遊ぶためとのことだった。

少し前の平日に、午後に子供たちと楽しそうに遊ぶ父親の姿や、子供とサッカーをしている母親の姿を見かけた。オランダでは、こうした状況にあって、家族と一緒に過ごす時間がさらに増え、家族の絆が深まっている様子が見える。こうした姿を見ていると、気分がとても明るくなる。日本にいないために日本の状況は詳しくわからないが、想像するに、社会に流布するニュースや言説によって、随分と陰気な雰囲気が漂っているのではないかと思う。協働者の方から話を聞いていると、そうした印象を受ける。

自分の生命が脅かされるかもしれないこうした状況の中では、自分の生き方や在り方が根本的に問われ、それらの見直しが迫られているように思える。

これから少し休憩して、再度作曲実践を行おうと思う。昼の時間までまだ時間がある。引き続き創作活動を楽しみながら今日という1日を過ごしていく。フローニンゲン:2020/4/29(水)10:13

5785. 夕焼け空を眺めながら

時刻は午後7時を迎えた。今日は早朝から空に薄い雲がかかっており、曇りがちであったが、夕方このこにきて西日が照り始めた。ちょうど今から数時間ほど前に街の中心部に買い物に出かけたときは曇っていたのだが、入浴を始めようと思ったあたりから今のように晴れてきた。やはり太陽の姿を見ると心が和む。

太陽の光の優しさ。それを感じる。フローニンゲンの春から秋にかけては太陽を拝める時間が長く、それでいて過ごしやすい気候であるから、その時期には太陽の光の恩恵を存分に得たいと思う。そこからまた長い冬の時代に入っていこう。

夕方、街の中心部のコーヒー専門店に足を運んだ。コロナウイルスの影響で入場制限がかかっており、3人までの入店となっていたが、比較的すぐ店に入ることができ、無事に目当てのコーヒーを購入することができた。今回はオーガニックのダークな豆を2種類ほど購入した。今週末ぐらいに今飲んでいるミディアムのものがなくなると思うので、来週からは本日購入したものを楽しもうと思う。今回の豆はミディアムのものよりも挽きやすいと思われる。

午前中、シベリウスの曲を参考にしていると、いつものように自然の力を感じた。シベリウスの曲の根底には自然の力強さや生命力を感じる。自然の躍動感を伴った曲をシベリウスが書き続けることができたのは、ひとえに彼が生活をしてきたアイノラの地の自然の恩恵によるのではないかと思う。シベリウスが生活していた家は今は博物館になっており、そこを訪れたのは2年前の夏だったと思う。もうあれから2年も経ったのか。時の流れは早いものだ。

シベリウスと同じように、いつか自然に囲まれた地で創作活動に打ち込みたい。自然からインスピレーションを絶えず受ける形で日々を過ごしていく生活。その生活が実現するのもそう遠くないのではないかと最近思っている。

買い物を終えて街の中心部から自宅に戻っている最中、明日の朝にバッハのコラールを参考にすると際には、久しぶりに教会旋法をより意識していこうと思った。特性音をうまく活用し、4度体積の和音を多く使用していく。そうすれば、教会旋法らしさが引き立つ。どの教会旋法を活用するかは明日の朝になってみないとわからないが、明日の朝にはそうしたことを試してみようと思う。また、ここ最近では理論書の譜例を写譜する際に1つのファイルにそれを蓄積していき、随分とそれが溜まってきたので、もう少ししたらそれらの譜例を縦横無尽に組み合わせる形で自分の曲を作っていくと思う。

理論書に掲載されているのは、自分の心に響くパッセージが多く、学習としても学びが多くある。今使っているウォルター・ピストンのハーモニーの理論書にせよ、チャイコフスキーが執筆した理論書にせよ、ショーンバーグが執筆した理論書にせよ、どれも学習効果の高い譜例が豊富に掲載されている。このところはふとした時に、大学受験の勉強方法を思い出しながら作曲実践に取り掛かっており、それらの理論書は数学で言えば数研出版の青チャートのようなものであり、英語で言えば旺文社の英文標準問題精講のようなイメージで捉えている。それらのテキストから多くのことを

得たように、今手元にある理論書、さらには近々届くであろう数日前に購入した理論書から汲み取れることは全て汲み取っていかうと思う。フローニンゲン:2020/4/29(水)19:27

5786. 五輪出場と新興宗教団体に関する興味深い夢

時刻は午前6時半を迎えた。今、小鳥たちの清澄な鳴き声が辺りに響き渡っている。彼らの鳴き声に耳を傾けながら、早朝の青空を眺めている。

昨日は夕方まで曇り空だったが、夕方以降からは晴れてきて、夕日を眺めることができた。その流れを受けて今も青空が広がっている。ただし、今の天気からは信じがたいが、午前中には小雨が降るとのことである。フローニンゲンの天気の変わりやすさから言えば、確かにそれもあり得るかと思われる。午後には天気が再度回復するようなので、午後には近所のスーパーに買い物に行き、食料品を購入したい。

気がつけば明日から5月を迎えるが、案の定、フローニンゲンは肌寒いままである。例年とは異なり、今年は今の時期に湯たんぽを使うことやヒーターをつける必要は無くなったが、外出する際にはコートが必要であり、マフラーも必要なこともある。今朝も少々肌寒い。

今朝方はいくつか印象に残る夢を見ていた。夢の中で私は、小学校時代のサッカーチームが使っていたグラウンドにいた。そこで大学時代のサークルのメンバーたちと一緒にサッカーをしていた。いや、厳密にはグラウンドが縮小されて、フットサルをしていたのだと思う。同学年のメンバーだけではなく、卒業した先輩と後輩が何人かそこにいた。夢の中の私は大学4年生らしく、サークルでは一番上の学年だった。

サークルの代表を務めていた友人がふと、今度の東京五輪のフットサルの競技にうちのサークルが招待されるとみんなの前で述べた。その場にいた全員は最初それを信じるができなかったが、それが事実だと知って興奮と喜びに包まれていた。だが、登録できるメンバーの数が極めて少なく、7人ほどだった。私を含め、同学年から4人メンバーに入り、残りをどうしようかと代表の友人と話し合った。確かに上手い先輩に入ってもらうことによって大会を勝ち上がることができるかもしれないが、今後のサークルの発展を考えると、後輩に入ってもらった方が良いのではないかと私は述べた。すると代表の友人もそれに賛同してくれ、まずは1学年下の後輩から1人入ることが確定した。

彼は今、うちの大学に通いながらも、かねてから獣医になりたかったようであり、再度大学に入り直すための勉強をしているようだった。長時間勉強するための体作りを熱心に行っている最中とのことであり、彼は走り込みをしていたために体力がものすごくあった。大会ではその体力を存分に活かしてもらいたいと思った。

グラウンドでの練習が終わると、フットサルをしていたはずなのだが、なぜだかトンボ引きをすることになった。次にグラウンドを使う予定の子供たちがもうグラウンド脇に待機していて、彼らのためにトンボをかけることにした。その時に、獣医になろうとしている後輩と一緒にトンボかけをし、勉強の進み具合と最近のトレーニングについて話をした。その中で断食の話となり、彼もかつて断食をしたことがあったようなのだが、事前の準備が足りず、体調が悪くなってしまったと述べた。そこで私は、正しい断食のやり方を彼に紹介し、そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面も、実は前の夢と連続していたのではないかと思われる。私はまた同じグラウンドにいて、今度はグラウンドのフェンス沿いを歩いていた。フェンス際には見慣れない店が密集しており、私はその中で1つ、古い小屋のような骨董品屋を見つけ、その中に入った。中には店員はおらず、その代わりに高校時代の友人がいた。どうやら彼がこの店を管理しているようだった。

彼に話を聞いてみると、そこは店ではなく、貴重な骨董品を保存している場所のようだった。どんな骨董品を保存しているのか聞いてみたところ、変わった名前の人の遺灰を集め、その遺灰を宝石箱のようなものの中に入れて管理しているとのことだった。そこに保存されている宝石箱は見事な美しさを持っており、1つ1つは国宝のように思われた。面白い名前の人を集めているとのことだったので、どんな名前の人の遺灰が納められているのかを尋ねてみた。

私:「例えばどんな名前の人がいるの？」

友人:「そうだね、例えば…、ああ、この人の名前は面白いよ。「結晶板(けっしょうばん)だった」さんという方がいる」

私:「「結晶板」さん？それは変わった名前だね笑 苗字が「結晶」で、下の名前が「板」さんはなかなかいないね」

友人:「いや違うよ、苗字は「結晶」で、下の名前は「板だった」さんだよ笑。「結晶板だった」というのがフルネーム」

私:「それはますます面白い名前だ笑」

その他にもたくさん変わった名前の人々の遺灰が宝石箱のような箱の中に納められていた。しばらくそれらを眺めた後、友人の彼はフラフラと外に出て行ってしまった。その場所を管理しているのは彼であり、ちゃんと鍵をかけなくて大丈夫かと心配した。彼の代わりに私が鍵を閉め、彼を追う形で鍵を彼に手渡そうと思った。

彼はフラフラした足取りで、そこから少し先に進んだところにあった路上によくある写真撮影用の個別ブースほどのスペースの中に入って行った。グラウンド脇にはそのような個別ブースがなぜかいくつもあったのである。彼が入ったブースを覗くと、彼は二日酔いなのか、目を閉じたままぶつくさ何かを述べている。耳を澄ませて聞いてみると、「ハイボール飲みすぎた…。もう飲むのはやめよう」と唸っていた。彼に大丈夫かと声をかけ、彼は目をゆっくりと開けた。なんとか彼は大丈夫のようであり、店の鍵を彼に渡した。すると彼はそのお礼として、興味深い新興宗教団体が今日の夕方に、近くで説明会を兼ねたイベントを行うと教えてくれた。

その宗教団体は、悟りに至ることを究極的な目的に掲げているような団体であり、確かに宗教団体なのだが、勧誘などは一切なく、それでいて団体の活動に参加する人が後を絶たないとのことだった。私はそのカラクリが知りたくなり、特に予定が他になかったので、その団体のイベントに参加してみることにした。

夕方になり、その団体が開催する予定のイベント会場に足を運んでみた。そこはグラウンドからほど近い場所にあった。受付でネームプレートのようなものをもらい、説明会用の資料を受け取った。説明会の会場は2階に分かれており、どちらの階に座っていても、1つの巨大なスクリーンを見ることになるようだった。

私は1階の部屋に入った。そこは和を感じさせるような空間になっていて、少し薄暗く、蝋燭の炎のような光が揺らめいていた。どの辺りに座ろうかと考えていたところ、小中学校時代の友人(AF)がその場において、彼もこのイベントに参加するのだと知った。7人ぐらいが腰掛けられる長机の席の真

ん中辺りに座ることにし、イベントの開始を待った。しばらくして、部屋の明かりが消され、前方の巨大なスクリーンを通じて説明会が始まった。そのビデオの演出や構成は見事であり、それは大手広告会社で作ったものだと推測された。どういうわけか、ビデオが始まってすぐに私は意識がなくなり、気がつけばイベントが終わっていた。

ビデオ開始と共に一瞬にして深い変性意識状態となり、気がつけばもう私は会場の外にいたのである。会場の外では、その宗教団体に古くから参加している人たちが何人かいて話をしていて。彼らの話に耳を傾けると、ある男性が「自分の究極的な目標は、悟りの境地に至り、それによってこの世界を救済することである」と述べていた。それを聞いた時、とてもナイーブな霊性を信奉しているなと思い、同時にこの宗教団体の多くの人は物質化された霊性主義に絡め取られていると思った。私は引き続きその場において、彼らの話を聞いていた。

男性A:「あのお方は位が1つ上がったそうだよ。いよいよ最上級の位まで後1つのようだ」

男性B:「さらにもう1つ上の位があるなんて信じられないが、それはめでたいことだ。今度あのお方に会ったら、お祝いの言葉を述べよう。」

男性C:「そうだね。だけど、あのお方が今度つかれる位の人たちは、どういうわけか19年ほどその位に留まり、最上級の位に辿り着くことなくみんなあの世に行かれるんだ。ちょっと不思議だな」

男性A:「最上級の位の1つ前の位に辿り着いただけでも立派だよ。私たちも精進しよう」

男性B:「そうだね」

男性C:「うん、そうしよう」

彼らのそのようなやり取りを聞いた後、私はその場を後にすることにした。友人から聞いていた通り、その宗教団体は説明会のようなイベントを開催するものの、一切勧誘はしてこなかった。だが私は、会場に入った瞬間から自分の意識状態が通常ではない形に変容していることに気づき、何らかの仕掛けがそこにあると思った――薄暗い場所で蝋燭の炎のようなものを見せることや特殊な香りを使って変性意識状態を引き起こそうとしているカラクリには気づいていたが――。

団体の関係者に話を伺った際にも、「私たちは一切勧誘はしないんですよ。ですが不思議なことに、皆さん何かの導きによってか、私たちの団体に戻ってくるんです。そして徐々に悟りの道を歩まれ、気づいた時にはもう別人になってるんです」と述べていた。それを述べたのは比較的若い女性だった。

私は、宗教団体の関係者や、サイコパスやソシオパスの人たちを見極める際に、彼らの目を見るようにしている。目を見れば、彼らの精神状態が即座に分かり、目の前の人がそうした人間なのかがすぐに見極められる。先ほど会場の外で話していた3人の男性は、完全にそちらの世界に行ってしまった人間の目をしていて、説明をしてくれたその女性は通常の人間の目をしていて。この団体についてはもう少し調査が必要だと思ったところで目が覚めた。フローニンゲン:2020/4/30(木)

07:24

5787. 感謝の念と就寝前の過ごし方

時刻は午後7時を迎えた。今日は早朝から薄い雲が空を覆っており、午前中には小雨が降る時間帯もあった。だがそれが嘘のように、今日もまた夕方の空は夕日で輝いている。

午後から天気が回復したこともあり、昨日購入した椎茸を天日干しし、自らも書斎の窓辺で少し日光浴を楽しんだ。時間としてはわずかではあったが、太陽の光を浴びることは心身衛生上とても良いことかと思う。

今日は昼食後に、協働者の方とのオンラインミーティングがあった。その時間帯にはすでに空は晴れていて、空を見ながら話をしていると、改めてこのようにして様々な方と協働させていただけることの有り難さを思った。そうした機会を得ることができたこと、そしてそうした縁に対して感謝の念を改めて持った。

今日もその他の時間帯は創作活動に従事していた。自分の内側の声が望む実践に従事し続けること。それが自己を真に育てていく道である。逆に内側の声が望まないことをし続けるのは自己を蝕んでいく。そうした自虐行為は決してしないようにする。そのようなことを昨夜も考えていた。

明日からは5月を迎える。フローニンゲンの街はまだまだ肌寒いですが、街はもう新緑に溢れ始めている。新たな生命の息吹を感じられる季節になった。様々な生命たちが躍動する季節の中で、自分も自らの生命力をより一層高め、躍動的なエネルギーの中で日々の取り組みに従事していきたい。現在、創作活動を含め、自分がライフワークだと思える活動によりエネルギーと時間を充てるための様々な工夫をしている。

夜の時間帯、とりわけ就寝前の時間帯にインターネットを閲覧することを控えているのは以前からだが、それをより徹底したいと思う。インターネットはアルコールなどと同じように、間違いなく中毒性があり、就寝前にインターネットを閲覧していると、眠りの質に明らかな影響が見られることをこれまで経験している。良質の睡眠を取り、翌日の創作活動に打ち込むためには、就寝前にインターネットを閲覧する形で睡眠の質を下げないようにすることをこれからも気をつけていく。

夜の時間帯、特に就寝前は、リラックスと評して大抵多くの人は睡眠の質を下げるような真逆のことをしてしまいがちであり、それには注意が必要だ。日々自らのライフワークに全身全霊を注ぐために、そうした愚行を犯さないようにこれからも注意する。1日の活動がひと段落したら、無心で絵を描いたり、窓の外を眺めたり、身体をほぐしたり、静かに坐して過ごすことなどをしたい。さらには、その日1日を充実して過ごせたことに感謝の祈りを捧げるようにしてその日を終えていくようにしたい。今夜もそのようにして就寝前の時間を過ごす。フローニンゲン:2020/4/30(木)19:24

5788. ふとした考え事

時刻は午前6時を迎えた。今朝はうっすらとした雨雲が空全体を覆っている。今はまだ雨が降っていないが、今日は午後から夜までずっと雨のようだ。今朝はおそらく朝日を拝むことはできないだろう。そんな中、小鳥たちはいつものように美しい鳴き声を上げている。

先ほど、書斎の窓の外を眺めながら身体をほぐしていたのだが、その時に彼らの鳴き声が耳に入ってきて、瞑想的な意識の状態になった。今日も小鳥たちと寄り添う形で自分の取り組みを前に進めていく。

昨日、近所のスーパーに出掛けた時、帰り際に1匹の猫を見かけた。そこでふと、猫や犬、さらには小鳥たちはコロナウイルスの影響はないのだろうかと思えた。コロナの影響が取り上げられてい

るのは人間や人間社会に関する事だけであり、動物についての被害については今のところ見聞きしたことがない。目の前をゆっくりと歩く猫の後ろ姿を見ながら、彼ら動物たちの無事を願った。そのようなことが昨日にあった。

昨日もいくつか雑多なことを考えていた。1つには、生まれ変わったらこれこれをしようとか、来世ではこれこれをしようというのはどこかおかしいのではないかというものだった。なぜそれを今しないのか、なぜそれを今世でしないのか。私の疑問はそこにあった。

生まれ変わってしたいことがないぐらいにしたいことを今世でしているような生き方、それが今世での幸せな生き方なのではないかと思う。そして、来世もまた今世と全く同じであることを望むことが、今世で幸せに生きていることの証なのではないかと思う。少なくとも私はそのような思いで毎日を生きている。人は自分の人生が一度切りであるということを見過ごしているのではないだろうか。そうであればあのような生き方はできないはずである。あのような生き方、つまりやりたいことを来世に先延ばしにし、自分が望まないことばかりを今世でする生き方である。

今日もまた創作活動に励んでいこう。今日から新たな月を迎えた。いよいよ5月がやってきた。明日もまた雨が降るようだが、明後日からは再び晴れの日が続く。書斎の窓から見える新緑も立派になってきており、生命力を感じさせてくれる季節になった。

季節の足音や鼓動を聞いたり、さらには生命の背後にある生命ないしは霊的なものの存在を捉えたりすることができるようになってきている自分がある。以前よりも、心眼や魂眼、そして心耳や魂耳が開発されている自分がここにいる。そうした開発が進むに応じて、この世界に満ち満ちている色や音の存在をよりはっきりと認識できるようになっている。それが日々の充実感をより一層強めてくれている。肉眼や肉耳では捉えられない色や音を捉えていくこと。それをこれからも大切にする。フーニンゲン:2020/5/1(金)06:30

5789. 今朝方の夢

時刻は午前6時半を迎えた。今、小鳥たちが高らかな鳴き声を上げている。それに呼応するかのように、自分の魂も高鳴っている。小鳥たちの鳴き声には自己を啓発してくれるような力があるようだ。

今朝方も少しばかり夢を見ていた。それについて振り返り、少しばかり絵を描いてから早朝の作曲実践に取り掛かりたい。

昨日ドイツから2冊の書籍が届けられた。それらはどちらも作曲理論書であり、特に“Contemporary Harmony: Romanticism Through the Twelve-Tone Row”は、掲載されている譜例の数が豊富であり、450近くある。昨日パラパラと中身を眺め、詰将棋のような感覚で、あるいは棋譜並べのような感覚で、それらの譜例を参考に曲を作っていく楽しみを思うと思わず笑みが溢れた。現在取り掛かっている理論書の譜例を全て参考にし終えたら、こちらの書籍に取り掛かってもいいだろう。

今朝方の夢。夢の中で私は、日本のオフィス街を歩いていた。それはおそらく東京だと思う。東京のオフィス街の中で、様々なビルの脇をスーツケースを引きながら歩いていた。私は一時帰国の際に、協働者のどなたかにお会いしに東京を訪れていたのだと思う。

格好はスーツ姿なのだが、まだワイシャツを完全に着ておらず、半分だけ着ているという中途半端な状態だった。季節はこれから暑くなっていく方向に向かっていたが、その日はまだそれほど暑くなっていなかった。とはいえ、長時間歩くと汗ばむような季節であったことは間違いなく、そうしたことから私はワイシャツを完全に着るのではなく、中途半端な格好をしていたのだと思う。さすがにそうした格好で歩くのはみっともないと思ったので、あるホテルの前で鞆を置き、そこでシャツをちゃんと着ようと思った。

すると、目の前の大きな通りの信号機がちょうど青になったので、急いで道路を渡ることにした。道路を渡りきると、そこには大きなビルがあった。そのビルの前で立ち止まり、ワイシャツを着ようとする。後ろから前職時代の上司が声をかけてきて、偶然の再会を果たした。上司はきちんとした格好をする人であったから、私の中途半端な格好を見て、笑いながら注意をした。注意の言葉を述べると、上司はすぐに自分の勤め先に向かっていき、「またあとで」と述べた。

上司が去ってすぐに、私は自分の鞆がないことに気づいた。スーツケースは手元にあるのだが、鞆をどこかに置き忘れてしまったようなのだ。そこではたと気付いたのは、先ほどホテルの前に鞆を置き忘れたということだった。私は慌ててホルに戻ろうとし、信号機が青信号に変わる直前の赤信号の状態であったが、急いで道路を横断すると、左から軽トラックがやってきて、自分にかすりそうになっ

たがなんとか無事に道路を渡り切った。そんな私の様子を、道路の反対側で信号待ちをしている比較的若い女性のビジネスパーソンと中年の男性のビジネスパーソンが見ていた。

ホテルに到着し、ロビーに入ると、ホテルの係員が自分の鞆を持って立っていた。それは自分の鞆だと伝え、本人確認を依頼された。確か財布が鞆の中に入っていると思ったのだが、財布は肌身離さず持っていたようであり、その代わりに鞆の中のパソコンを通じて本人確認をしようと思った。係員の人にパソコンを立ち上げてもらい、そこでパスワードを入力して無事に立ち上げることができればそのパソコンは自分のものであり、鞆も自分のものであることが証明できると思ったのである。それを実行してもらおうとしたところで夢から覚めた。フローニンゲン:2020/5/1(金)06:45

5790. 雨上がりの夕方に

時刻は午後7時を迎えた。今日は雨が降ったり止んだりを繰り返すような1日だった。5月最初の1日は、雨の風情と太陽の優しさを感じさせる形で進行していった。

今この時間帯の空にはまだ少々雨雲が残っており、遠くの空は少しばかり晴れている。今夜も少し雨が降るようであり、明日まで天気が崩れるとの予報が出ている。

今日もまた着実に自分の取り組みを前に進めていく1日だった。決して無理をせず、自分の心身の状態を絶えず観察しながら自分のペースでライフワークに取り組んで行った。

ドイツの書店から昨日2冊の書籍が届き、今日はイギリスの書店から1冊の書籍が届けられた。それらはどれも作曲理論書であり、早速中身を確認したところ、これからの作曲実践の肥やしになるであろうことが確信された。近々それらの書籍を参考にして学習と実践を進めていくことになるだろう。

今日も作曲実践の合間合間に絵を描いていった。今のところ自分の感覚に任せて筆を動かしており、そうした形で自分なりの筆使いを見出していく一方で、好きな画家たちの筆使いも参考にしていこうと思う。もちろん筆使いに加えて、彼らの色使いからも学べることは全て学んでいく。作曲と同様に、先人の仕事を参照することの意義は極めて大きく、芸術実践というのも、学術研究と同様に、先人の知恵と経験を参照しながら、そこに新たなものを積み重ねていくプロセスなのだということを改めて思う。

現在の家の書齋には何冊もの画集があり、それらを参考にしていこう。それらの多くは欧州の旅の最中に購入したものが大半である。実際に足を運んだ美術館で購入したそれらの画集にはそれぞれ固有の思い出がある。そうした思い出を思い出しながら、好きな画家の絵から喚起されるものを自分の絵として形にしていこう。今夜からそうした実践を少しずつ進めていこう。

今夜はこれから曲の原型モデルを作成していく。それは明日の作曲実践のための準備である。それが終われば、返信が必要なメールに返信し、その後絵を描きながらくつろぎ、ゆっくりと就寝に向けて準備をしていく。今日も非常に充実した1日だった。明日からは週末を迎え、平日と変わらずに自分の取り組みに従事していこう。フローニンゲン:2020/5/1(金)19:26

5791. 今朝方の夢

時刻は午前3時半を迎えた。今朝の起床は2時半過ぎだった。今日は小鳥たちよりも早く目覚めたようであり、彼らの鳴き声はまだ聞こえてこない。彼らが鳴き声を本格的に上げ始めるのは4時半過ぎであり、このところは彼らの鳴き声を聞きながら目覚めることが多かったように思う。

つい今し方、書齋の窓辺に近寄って空を眺めたところ、空に雲が覆われているのか分からないほどに暗く、空の様子がよく分からなかった。だが、いつも眩いばかりの光を発しているある星が見えなかったり、月が見えなかったりしたので、今朝のフローニンゲン上空の空には雲がかかっているようだ。

今日から5月最初の週末を迎える。平日・休日・祝日の境目なく自分のライフワークに打ち込む日々が続いている。今日も土曜日だが、そうしたことは一切関係なしに自分の取り組みに打ち込んでいこう。今朝は2時半過ぎに起床したこともあり、夜の9時半まで思う存分自分の活動に取り掛かることができる。今日は創作活動だけではなく、今月中旬から始まる「一瞬一生の会」で取り上げる課題図書続きを読もうと思う。それは数日前に言及した創造性に関するものである。

今朝方の夢を振り返り、その後早速本日の創作活動に取り掛かっていきたい。夢の中で私は、友人かそれとも見知らぬ誰かと一緒になって作曲をしていた。ZARDの懐かしの曲が脳内に流れていて、その曲をもとに誰かと一緒に曲を作っていた。脳内で流れている曲がとても懐かしく、その曲を聞くと幼少時代のことが色々思い出された。そうした思い出に浸りながら、曲を完成させ、その曲

を聞いてみたとき、心に響くものがあった。いつも1人で曲を作っている私は、曲が完成し、それを聞いたときに、誰かと一緒に曲を作ることの楽しさと意義を実感した。最初の夢はそのような内容だった。

次の夢の中で私は、以前協働していたある方と話をしていた。その場所は学校の教室の中のようなだった。話が落ち着くと、教室に高校時代の国語の先生が入ってきた。私が高校生の頃、その先生はまだ若く、20代後半であり、夢の中の私たちもまだ高校生ぐらいの年齢のような設定か、あるいは先生と生徒の関係性がそこにあるような形であった。そのため、私たちは先生に挨拶をした。その挨拶がまるで上下関係の厳しい部活で後輩が先輩に大声で挨拶をするかのようなものだった。先生の前に気をつけして立ち、大声で先生に挨拶をした。

どういわけか、挨拶の言葉を二つに分け、前半部分を協働者の方が担当し、後半部分を自分が担当することになった。しかし、その方が挨拶の言葉を中途半端なところまで述べ、いきなり途中の言葉から自分にバトンタッチしてきたのである。それがあまりにも中途半端な箇所であり、私はそれが可笑しく、思わず吹き出して笑ってしまった。さすがに先生もそれが面白かったらしく、先生も笑っていた。夢の中で爆笑し、そこで目覚めたとき、ベッドの上の私も爆笑していた。とても面白い夢を見たと思って時刻を確認すると午前2時半であり、大笑いによってすっきり目覚めることができた幸せを感じた。フローニンゲン:2020/5/2(土)03:52

5792. 人それぞれの固有な旅・永遠の旅

一人は各種各様の旅をして、結局、自分の持っていたものだけを持って帰る——ゲーテ

小鳥たちが静かに鳴き声を上げている。それは1日の終わりを祝福するかのようである。

旅としての人生。日々進む道のりの固有性。私たちは、毎日絶えず自分しか歩くことのできない道を歩いている。毎日がその人にとっての固有の旅。日々を歩む道のりが旅だけでなく、この世界へ自分の役割を通じて関与していく方法にも各種各様の道があり、それは旅と全く同じだ。人生という日々の旅は、各人がそれぞれ別々の旅をして、そうした旅を通じて得られたものをこの社会に各人の方法で還元していくことを通じて進んでいくものなのかもしれない。

今日も私は自分しか歩けない道を歩いた。その道を歩くことを通じて得られたもの。それをこの世界に還元していくことが自分の人生に課せられた使命である。

自分を呼ぶもの。それが「天命」ないしは「使命 (calling)」というものである。自分を呼ぶものを見るための眼、自分を呼ぶものの声を聞くための耳を持つことの大切さ。それらの感覚が塞がっているのであれば、それらを開発していくことの大切さ。そんなことを改めて思う。

今日もまた私は、少しばかりそうした眼と耳を開いた。それを開くために毎日の日々がある。そして日々は、旅を通じて得られたものをこの世界に還元し続けていく形で進行していく。これは終わらない。仮に肉体が朽ち果てても、それは終わることがないのだ。

自己の永続性については以前から何度も書き留めているように思う。だからここでその点について書き留める必要は全くない。自己の不滅性ゆえに還元の旅は未来永劫進んでいく。永劫回帰の本質とはそれなのかもしれない。

青空。晴れ渡る青空に心が和む。

一羽の鳥が青空を飛翔している。

今日は午前2時半過ぎに起床したこともあり、創作活動に思う存分に打ち込むことができた。曲に関しては様々な実験をしながら17曲ほど作った。これからも多様なアイデアを通して実験に次ぐ実験をしていく。実験に次ぐ実験が何よりも肝要である。

実験から得られたことを次の実験に活かし、実験の精度をより高めていくこと。そのようなことを思っ
て今日も作曲実践をしていた。また、自分の中で、小さな宝石細工を無数に作っていく職人のよ
うなイメージが生まれた。そのイメージを大切にしたい。大きなものは作らない。とにかく小さいものを
膨大に作っていく。その1つ1つを今後は宝石細工にしていくのだ。自分はそうした職人になる。

昨日から5月を迎えたが、今朝は足元が少々冷えたのでヒーターをつけた。来週は天気の良い日が続くが、冬と変わらずに最低気温が3度の日もある。その日もまたヒーターをつけることになるかも

しれないし、湯たんぽを使って寝ることになるかもしれない。最低気温が5度を下回る日の夜は湯たんぽを使って寝よう。そういう基準を設定しておこう。

こうした基準があれば意思決定が速やかにできる。このような基準は自分の日々の生活の中に様々な形で存在していて、重要なことはもちろんそうした基準に沿って行動することがだが、それよりも重要なことはそうした基準を適宜見直すことである。つまり、何も考えずに自動で行えることを増やすのと同時に、必要に応じて自動的にやっていることを冷静に見つめ直すのである。そのようなことを毎日やっている。

今日は午前と午後に分けて、少々読書をした。こここのところ意識的に読書から離れていたこともあり、書物の文章が水のように自分の内側に染み渡っていくのを感じた。それはまるで内側の渇きを潤し、内面世界を瑞々しくするかのような感覚であった。

明日はどのような1日なるだろうか。明日もまたきっと充実した1日になるだろう。私は毎日充実感と幸福感の道を歩いていく。そのような道を歩いていくと決めたのだから。フローニンゲン:2020/5/2 (土) 19:28

5793. 昨日を振り返って

今朝の起床はゆったりと午前4時半だった。起床してみると、小鳥たちはもう鳴き声を上げていて、美しい鳴き声で私を迎えてくれた。創作活動に打ち込む新たな1日が始まったことを嬉しく思う。起床と同時に、その日の創作活動への期待感が生まれ、起床直後の瞑想実践やヨガの実践の最中には、その期待感で包まれている自分がある。実際にどのような曲を作ろうかということや、どのような絵を描こうかということについて考えている自分がそこにいるのである。

時刻は午前5時半を迎えようとしており、この時間帯になると、空はダークブルーに変わり始め、小鳥たちの鳴き声もより力が入っている。天気予報を確認すると、今日から1週間は晴れの日が続くようで何よりだ。もちろん、気温は依然として低く、ひよっとするとヒーターをつけなければならない日や湯たんぽを使って寝なければならない日もあるかもしれない。そのような気温がまだ続くが、晴れの日が多くなってきたことはとても喜ばしい。

昨日も雑多なことを考え、印象に残る内的体験があった。それらの考えにせよ体験にせよ、それは自分のもとにやって来た贈り物なのだ。それを書き留めることにより、世界との繋がりを感じがより一層増すように思える。また、それを共有することそのものが社会参画を意味しているように思える。

曲を作ってみて初めてわかることがある。絵を描いて初めてわかることがある。そのようなことを昨日思った。音楽や絵画の単なる鑑賞者ではなく、実際に作り手になって初めて見えてくるもの、聞こえてくるものがある。ある作曲家のある曲の凄さや、ある画家のある絵の凄さなどは、作り手に回ってみればみるだけ体験を通じてそれが理解できる。作るという内的経験を経ているか否かは観賞の質にも影響するのではないかと思う。今後も曲と絵を作り続け、それが自分の鑑賞体験にどのような影響を及ぼすのか観察していこう。

作曲に関していえば、昨日ふと、インド音楽に改めて関心を持った。以前よりインド音楽には注目しており、長い歴史を持ったインド音楽から得られるものは非常に多いように思う。とりわけ、霊性に関する重要な何かがあるにありそうなのだ。インドの独特な風土で生まれたインド音楽には何かがある。その何かは霊性に関するものでありそうだとすることを昨日考えており、来月か再来月に書籍を注文する際には、インド音楽のリズムに関する書籍を購入しようと思った。偶然にも大変興味深い一冊を見つけ、先日書籍を注文しようとした際に、コロナの影響でアメリカの書店に注文できなかった書籍と合わせてその書籍を購入したい。

昨日の夕方、内的感覚として、夕方、小学校の時の給食の時間に流れていたジブリのピアノ曲が聴こえてきて、思わず懐かしくてその場で聴き入った。それは『魔女の宅急便』の映画で流れていた『海に見える街』という曲だ。そのピアノ曲を聞いた時、背筋に懐かしさと共に感動のエネルギーが流れた。窓の外をぼんやりと眺めながら、しばらくその感覚を味わっていた。

最後に、昨日は胃腸が休息を欲しているように感じれ、近々また断食をしようと思った。これまでは旅行に出かけ、旅行から戻ってくる都度断食をしていたが、コロナの影響で旅行が随分と延期されてしまい、ここ最近では断食ができていなかった。もちろん、朝食を食べないという都合上、毎日半日程度の断食を行っており、それでいて昼も夜も粗食を心がけているから、それほど胃腸への負担はないのだが、それでも毎日食べ物を体に取り入れることによって胃腸が日々働いていることに変

わりない。私たちに休日があるのと同じように、胃腸にも休日が必要なのだ。近々数日程度でいいので短い断食をしよう。フローニンゲン:2020/5/3(日)05:43

5794. 今朝方の夢

時刻は午前5時半を迎えた。少しずつ辺りが明るくなってきている。この時間帯は、空にうっすらとした雲がかかっているが、昨日のような雨雲ではない。これからゆっくりと雲が晴れていき、今日は太陽の姿を拝む時間が長くなりそうだ。

いつものように今朝方の夢を振り返り、そこから創作活動に取り掛かっていきたい。夢の中で私は、見知らぬ学校の校庭の上にいる。そこは砂利のグラウンドで、大学時代の友人や先輩たちと一緒にサッカーをしていた。ひょんなことから見知らぬ人たちとサッカーの試合をすることになった。相手もこちらも、楽しく試合をするような雰囲気があり、また全員が全員サッカーの経験者というわけではなかったので、比較的和やかな雰囲気ですべて進んでいった。

試合終盤にコーナーキックのチャンスを得る機会がこちらにあった。キッカーは私を目掛けてキックをしてくれたのだが、自分の身長では届かないほどの高さのボールであることがすぐにわかり、私は自分をおとりにして、相手をうまく引き付ける形で、サッカーの上手い先輩をフリーにした。その方はサークルは違ったのだが、サッカーの経験者であり、社会人になってから知り合うことになったサッカーの上手い先輩である。その先輩は190cmほどの大柄なのだが、足下の技術も高く、その先輩をフリーにすることによって得点が奪えると思った。すると、ボールはその先輩の足元に行き、ゴール前の混戦で相手を2人ほどかわしてシュートを放ち、見事にゴールが決まった。先輩と私は喜び合い、そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私はその先輩と一緒に学校の教室の中にいた。そこには見知らぬ外国人が何人かいて、彼らは日本国籍ではないのだが、日本の中高一貫校に通っていたようだ。その先輩は神奈川の名門校に通っていて、中高一貫校には詳しく、先輩がその場にいた外国人の1人に話しかけると、その外国人は私が知らないような高校名を述べたのだが、その先輩はその学校は西の名門校であることを述べた。私も一通りの中高一貫校を知っているのだが、その外国人が述べ

たカタカナの高校名は自分の頭の中の引き出しになかった。そのようなやり取りをした後に、教室に見知らぬ先生が入ってきて、授業が始まった。

私は一番前の席で授業を受けていたが、後ろの人が自分の頭で黒板が見えにくくないかを確認し、見えづらそうだったので、私は一番右の列の前から2番目の席に腰掛けた。その列には誰も座っておらず、私はその列の2番目に座るのがいいだろうと思ったのである。そこで夢の場面が変わった。

最後の夢の場面では、私は再びグラウンドの上にいる。先ほどと同じ学校の砂利のグラウンドの上にいる。そこで私は、一昔前の日本代表の選手たちとサッカーの練習をしていた。今でも現役で活躍しているある有名な選手が私に話しかけてくれ、足元の技術と視野の広さに見込みがあると褒めてもらい、その調子で練習を続けていけば、世界でもやっていけそうだと言われた。世界でやっていくために、英語かオランダ語を学ぶと良いと言われ、すでに英語なら話せると伝えると、そこからはその選手と英語で会話をするようになった。するとその選手が発した、「英国のクイーンはクールか？」という質問が、「英国のクリはクールか？」に聞こえ、一瞬困惑しながらも、思わず笑ってしまった。私は笑いながら、どちらの質問に対しても十分な回答ができることをその選手に英語で伝えた。そこで夢から覚めた。フローニンゲン:2020/5/3(日)06:00

5795. 悪を見極め、悪を保持すること

優しい夕日がフローニンゲンの街に降り注いでいる。そよ風が新緑の葉を揺らし、時がゆっくりと流れている。日曜日もうつろりと終わりに近づき、明日からはまた新たな週を迎える。今日も雑多なことを考えていたような気がする。「発達の商品化」の問題や人間存在に内在する善悪について考えていた。その折、人間の腸は、善玉菌だけではなく、悪玉菌と日和見菌によって調和の取れた生態系が維持されているように、自分の心的世界の中でも悪玉菌を排除してはならないのではないかという考えが芽生えた。

もちろん、悪に飲まれるのではなく、必要な悪を見極め、それを自分の内側に保持し続けておくのである。その見極めは難しく、またその保持も難しいことは百も承知であるが、内側に悪があつてこそ心的世界が調和の取れたものになるのではないかという気がしている。自分の内側から悪を抜き

去ってしまったらどうなるのであろうか。腸と同様に、心の生態系が崩れてしまうのではないかと思われる。

現代社会は、悪を見極める慧眼を持ち合わせておらず、それでいて悪を排除しようとする。結果、必要な悪は死滅し、逆に不必要な悪が蔓延するような本末転倒の形になっているように思えてくる。悪を忌み嫌い、悪を排除しようとする精神的潔癖主義の進行は、この現代社会の特徴の一つかと思われる。そのようなことをふと考えていた。

今日は正午過ぎにオンラインミーティングを行い、その後仮眠を取った。仮眠の最中、不思議なビジョンを知覚していた。自分の存在が地図上にマップされ、そこが光るというものだった。私は自分の存在が目立つことを避けようとしており、地図上に表示されることを嫌がっているようだった。誰かが自分のそばにいて、私はその人に冗談を交えて、地図上の世界から逃れたいということを伝えた。そのようなビジョンを見ていた。それを今でも覚えている。

早朝、書斎の窓辺にたたずみ、庭の木で休んでいた可愛らしいスズメの様子を観察していた。彼らの動く様子を観察し、彼らが何を考えているのかを理解したいと思いながら眺めていた。彼らの生きる物語の中に入り、彼らの生きる物語を内側から理解したかった。そのような形で小鳥たちを眺めていると、今年の夏、旅行から戻ってきた帰りの列車に乗っている途中で、暑さのためにそこからの線路が脱線し、列車が途中駅で止まるという事態に遭遇したことを思い出した。

駅で立ち往生している際に、乗客たちと話をしていると、その中に偶然ながらフローニンゲン大学の教授がいて、彼と少し話をしていた。彼はチュニジアにバードウォッチングに行っていたらしく、書斎の外の小鳥たちを眺めながら、その教授の話を懐かしく思い出した。目の前の現実世界と記憶の世界が行き交い、新たな考えや感覚が生まれてくる。そしてそれはまた新たな記憶となっていく。日々は過去の記憶の連続過程の中にあり、同時に新たな記憶の生成過程の中にあるとも言える。

その他に今日はどのようなことを考えていただろうか。それらを挙げればキリが無い。そういえば、今日の作曲実践の中で、シューベルトの曲を参考にしていた時、面白いリズムの曲を見つけた。ちょうど昨日、インド音楽のリズムに関する専門書をチェックしていて、それを書籍購入リストの中に入れていた。やはりその書籍を購入し、リズムに対する感性をより育んでいこうと思った。自分の内側の

音楽的身体感覚を養いながら、それと同時に、面白いリズムの曲を詳細に分析していこうと思う。そのようなことも考えていた。フローニンゲン:2020/5/3(日)19:29

5796. 今朝方の夢

時刻は間も無く午前6時を迎えようとしている。今朝の起床はゆったりと午前5時であり、その時にはもう小鳥たちが鳴き声を上げていた。今も彼らの澄み渡る鳴き声が聞こえてくる。

空には薄紫の柔らかな雲が少し浮かんでいる。天気予報を見ると、今日のみならず、今日から1週間は晴れの日が続くようだ。天気の良い今日は、椎茸の天日干し日和であり、日光浴日和でもある。そんな1日を今日もまた創作活動を軸として過ごしていこう。創作活動に加えて、今日の午後にも、今月の中旬から始まる「一瞬一生の会」の反転学習用の動画を作ろうと思う。成人発達理論について前編と後編に分けて動画を作ることを考えている。

今朝もまた印象に残る夢を見ていた。夢について振り返りをしたら、今日も早速早朝の創作活動を始めていきたい。

夢の中で私は、日本のどこかの地域の海沿いの街にいた。雰囲気として実家の近辺のようにも思える。そこで私は海沿いの道をゆっくりと歩いていた。すると広場のような場所に出くわし、そこで小中学校時代の友人と出会った。彼と話をしていると、3人の見知らぬ外国人女性が現れた。彼女たちの日本語はたどたどしく、どうやら日本にやってきたまだ日が浅いようだった。

話を聞くと、彼女たちは日本の学校に転校してまだ間もないとのことだった。彼女たちはどういうわけか、私に色々と質問をしてきた。その中に年収に関するものがあり、私はその質問に答えなかった。質問をしてくる彼女たちは、何やら私を口説こうとしているようであり、あまり関わらないようにしておこうと思ったので、私はその場を離れた。すると、夢の場面が少し変わった。

依然として同じ街が舞台であったが、時間と場所が少し変わった。ここ最近ある日本人画家の方が夢に出てくる頻度が増えており、そこでもまたその方が現れた。その方の幼少時代の様子が夢の中に映っており、私はその様子を眺めていた。その方は幼少時代に色々と辛い体験をしてきたようである。現実世界ではどうなのかはわからないが、その方には姉がいて、姉と父親との関係が良くな

く、父親の暴力によって姉は体に傷を負い、姉はその傷を苦しんで自殺をしてしまったようだった。その画家の方自身も父親からは辛く当たっていたらしく、そのあたりの様子が映し出されていた。しばらくその様子を眺めていると、再び夢の中の街に意識が戻った。私は引き続き海沿いの道を歩いていた。

1人で海沿いの道を歩き、公園に辿り着いたとき、ちょうどその方と出くわした。その方は、夕暮れ時に犬の散歩をすることが日課のようだった。私は公園のブランコの近くでヨガをしていた。その様子を見たその方は微笑みながら、「足腰を鍛えていらっしゃるのですね」と一言述べた。そこから私たちは、一緒に犬の散歩をし、夕暮れ時の優しい太陽の光を浴びながら、少しばかり会話を楽しんでいた。フローニンゲン:2020/5/4(月)06:13

5797. 深まる仮眠の治癒力と氷解した謎

時刻は午後7時を迎えた。ちょうど先ほど夕食を摂り終えた。偶然にも、小鳥たちも夕食の時間のようであり、隣の家のニコさんの庭先にある餌箱を彼らがつつついている姿が見える。餌を食べていない小鳥たちは夕方の鳴き声を上げている。

暮れゆく夕日を眺めながら、彼らの合唱を今聞いている。今日は午後、今月中旬から始まる「一瞬一生の会」の第2期に向けた動画コンテンツを作成した。それを無事に作成し終えたので、夜の時間はまた絵を描いたり、明日の作曲実践に向けて曲の原型モデルを作成していこう。

静かに進んでいく時。そして静かに進んでいく創作活動。時も創作活動も、そして自分の人生も緩やかな進行過程の中にある。それらが向かっている場所はわからないが、何かしらの方向性を持ってどこかに向かっていることだけは確かだ。私にできることは、その運動過程の中にい続けることであり、そこで自分の取り組みに従事していくことだけだ。

午後の仮眠後、このところの仮眠がもたらす回復力が高まる一方であることに気づいた。意識が短時間の間に深い次元に降りていき、そこで深い治癒がなされるという現象が起こっている。今日の仮眠中には不思議なビジョンを見ていた。それは静かな幸福感を伴うものであり、主題としては愛に関するものだったように思う。仮眠から目覚めた時の内的感覚として、愛に伴う独特のエネルギーが内側を流れていた。

午前中にふと、自己は自分という1人の人間の記録係の役割を務めていることに気づいた。それは、言葉・音・絵を通じて行われる記録である。私は自分という1人の人間の記録係だったのだ。この人生で出会うもの、体験する事柄を、つぶさに言葉・音・絵として記録していこう。それは利他的な何かにつながっている。そんな確信があった。

午前中にコーヒーを入れている最中、大きな発見があった。オランダにはマンションという概念はなく、マンションのような建物があるにはあるが、それはとても少ない。一般的にはアパートか一軒家である。そもそもこの国には4階以上の建物が少ないのである。今私が住んでいるものはアパートと言ったほうがいだろうか。一軒家ではないことは確かだ。

毎日朝と夕方の決まった時間になると、白と黒のまだらの犬の散歩を行うおじさんがいる。彼は近所の人に住んでいて、以前彼の家の前で顔を合わせ、挨拶をしたことを覚えている。そんな彼は、いつも自分の家の前の通りを通る時、やたらと自分の部屋の方をチラチラと見ていて、まさか自分の部屋の場所を知っているのかと思った。だが今日わかったのは、彼は私の部屋を見ていたのではなく、3階の隣の部屋を見ていたようなのだ。

正直なところ、チラチラとこちらを見る姿が不審者のように思っていたので若干気になっていたのだが、今日彼が隣の家の住人と目が合ったらしく、手を振って挨拶をし合っていた。つまり、彼は私の部屋を見ていたのではなく、隣に住んでいる彼の友人の部屋を見ていたようなのだ。これまで数年間ほど彼が自分の部屋を見ているようで薄気味悪く思っていたが、そうではないことが理解できて思わず笑ってしまった。長年の謎が氷解し、そんな発見があったのが本日であり、改めて人間は自分の勝手な解釈をしながら生きているのだということに気付かされたエピソードだった。フローニンゲン:2020/5/4(月)19:27

5798. 満月の光を浴びながら：今朝方の夢

時刻は午前3時半を迎えた。今朝の起床は午前3時前であり、小鳥たちが鳴き声を上げ始める前であった。実際のところは、小鳥たちはまだ泣き始めておらず、彼らが鳴き声を上げ始めるのは1時間後ぐらいだろう。

このところは午後9時半ごろから就寝に向けた準備をするようになり、そのおかげもあって時間としては長くなくても十分な休息を取ることができている。だらだらと寝るのではなく、密度の濃い睡眠が実現されている。そのおかげもあってか、日中の活動がとても充実している。睡眠も他の活動と同様に、その密度が重要なのであって、決して時間の長さが大切なのではないことがわかる。

今朝方、いつもと同じように起床後のヨガの実践をしようとしたところ、ふと窓の外を眺めると、そこに満月が浮かんでいた。今もそれはフローニンゲン上空の空で輝いている。満月が発するなんとも言えない光。実際には、太陽の光が月に反射をしているわけだが、月を媒介した光は、太陽から直接もたらされる光とはまた異なる質感を持っている。

月の光を浴びながらヨガを行い、静かな祈りの中で始まった1日。今日もまた充実した1日になるに違いない。今日は協働プロジェクト関係の仕事もないので、1日中創作活動に打ち込もうと思う。

今朝方も夢を見ていたが、今朝方の夢はそれほど記憶に残っていない。覚えていることと言えば、市民体育館かどこかでバスケをしている場面である。そこには小中学校時代の友人たちがいて、中でも中学校時代のバスケ部のメンバーが多く、彼らとバスケを楽しんでいた。こちらのチームにいたある親友(HS)は積極的にシュートを打つものの、それがなかなか決まらずに苦戦しているようだったが、試合の最後に無事にゴールを決めたのを覚えている。

その他に覚えているものとしては、不思議な施設の中でウロウロしていたことである。その施設は学校の寮のような機能を果たしているようだった。男子生徒と女子生徒の寮が分かれていて、私は男子生徒の寮の中をウロウロしていた。すると、小中学校時代の友人(AW)と出会い、彼が受験勉強に苦労しているという話をし始めた。話を聞くと、センター試験の対策に追われているらしく、現状どれだけ点が取れているのかと、どのような勉強をしているのかを尋ねた。そして目標としている大学が要求しているスコアについても確認した。

彼が志望している大学は、二次試験よりもセンター試験を重視するらしく、センター試験は尚更重要なようだった。彼の現状のスコアを聞くと、確かに悲惨なものだった。得点率で言えば25%ほどであり、私は思わず、「確率的に、それは全ての問題を勘で解いても取れるような点数ではないか」と述べた。友人は苦笑いをしていたが、そうだと認めた。そこから私は、彼にセンター試験の対策に

ついて説明をした。その後彼と別れて寮内を歩いていると、いつの間にか自分は女子寮にいることに気づいた。するとそこで小学校時代の女性友達(HK)に出会った。彼女は中学校からは別の学校に転校したため、そこでの再会を嬉しく思った。そこでしばらく彼女と立ち話をしていた。そのような場面があったことを覚えている。

この寮に関して言えば、その他にも、寮内の生徒たちは毎日決まった時間に部屋の掃除とトイレや風呂の掃除をしているようだった。ちょうど私が寮内を歩いていた時も掃除の時間と重なり、全員が部屋の扉を開け、せっせと掃除をしていた。見知らぬ女子生徒が室内のトイレと風呂を掃除していた姿が印象に残っている。そのような場面を経て、その他に断片的に覚えていることと言えば、おそらくその寮のある学校の体育館で、中学校時代の先輩たちと話をしていたことだ。

先輩の1人が漫画を譲ってくれるとのことであり、体育館の壇上の背後に先輩が所有している倉庫があるとのことだった。倉庫のシャッターがガラガラと上に上がっていき、見ると立派な倉庫がそこにあった。中はとても広く、びっしりと漫画がそこに詰まっていた。そこで先輩は、私に譲ってくれる漫画を吟味し始めた。そのような夢の場面を経て目が覚めた。

それでは今日はこれから、少しばかり絵を描き、その後、早朝の作曲実践に取り掛かりたい。今朝は3時前に目覚め、心身の状態もすこぶる良いので、充実した創作活動が実現されるだろう。フ

ローニンゲン:2020/5/5(火)03:55

5799. 身体運動的・生理的性質を持つ表現物

時刻は午後1時を迎えた。今朝の起床は午前3時前であったから、起床してから随分と時間が経ったことになる。この日記を書き留めたら仮眠を取り、そこから午後の創作活動に取り組みたい。そう言えば、本日はLiberation Dayという祝日である。道理で、オランダ国旗を掲げている家が多いわけだ。祝日の今日は天気にも恵まれている。空には雲があるが、それは雨雲ではなく入道雲であり、どこか柔らかくそうに見える。

自分にとって、生きることと表現することが同義なものになりつつあることを午前中に感じていた。自らの人生を絶えず言葉・音・絵で表現すること。それを自らに課す。それを継続させる形で日々を過ごしていく。午前中もまたそのような形で進行していった。午前3時前に起床したおかげもあり、午前

中の段階で14曲ほど日記的な短い曲を作り、7つほど絵を描いた。午後からも創作活動を楽しみながら進めていこう。

午前中に考えていた雑多なことを書き留めておきたい。過去の偉大な作曲家たちに範を求める際に重要なことは、彼らの曲を参考にする過程において、自分の身体感覚と合わないところを削ぎ落とし、その箇所を自分の身体感覚で埋めていくことだということを改めて自覚した。音楽というのは言葉と同様に身体運動であり、同時に生理的現象でもある。生理的に合わない音楽や音があることは当然であり、自らの作曲言語を構築していく際には、自分の内的感覚を育み、自らの身体運動と生理的性質に自覚的になっていくことである。

午後にいずれかの作曲家の曲を参考にする際にはその点を意識する。自分の感覚と合致するものは何であり、合致しないものは何かを探っていき、少しずつ自分の内的感覚を押し広げ、深めていく。そのプロセスを継続させていくことによって初めて、自分の作曲言語が形作られていく。自分の内側の感覚の塊に絶えず言葉・音・絵を当てていこう。そのようにして感覚を純化させていく。そうすれば、自ずからより納得のいく表現物が析出されるだろう。

過去の様々な表現者の表現物を参考にするを通じて、彼らの叡智と経験を少しずつ我がものにしていく。そのようにして自己を育んでいき、その過程で得られた知見や経験を他者に共有することを積極的に行っていく。それを言葉・音・絵という表現物を通して行っていく。

気がつけば、今参考にしているハーモニーの書籍もようやく500ページを超えた。一周するまであと少しである。この書籍を参考にし終えたら、先日届いたばかりの“Contemporary Harmony”に取り掛かっていこうと思う。そのようなことを考えながら今使っている理論書の頁をめくっていると、20世紀になっても調性と旋律を大切にしていたフランシス・プーランクの曲に出会った。

彼の曲のフレーズが印象的であり、早速ながら今Spotify経由で一連の曲を聴いている。近々、プーランクの楽譜を購入しようと思う。過去の様々な作曲家から汲み取れるものは全て汲み取って
いこう。フローニンゲン:2020/5/5(火)13:14

時刻は午後7時を迎えた。これから徐々に沈みゆく太陽をねぎらうかのように小鳥たちが優しい鳴き声を上げている。

今日のオランダは、Liberation Dayという祝日であった。午後買い物に出かけた帰り道、どこからともなく楽しげな音楽が聞こえてきた。音楽が聞こえてくる方向に歩みを進めると、道路の脇で大道芸人風の男性が音楽を奏でていた。これは以前街の中心部でも見かけたのだが、それは一般的な楽器ではなく、リアカー付きのオルガンみたいな楽器である。そこから楽しげな音楽が流れていて、今日の祝日を祝っていた。

音楽に合わせて、赤ちゃんを抱き抱えた母親が小刻みに踊りながら赤ちゃんを揺らしていた。その他にもたくさんの人がその場において、1つの曲が終わると、そのたびに大きな拍手が起こった。耳に心地よい音楽を背にしながら、自宅の方に歩みを進めていると、改めて音楽というのは、音を通じて心と魂を楽しませるものなのだと思った。もちろん、そうした音楽だけではないことは明らかだが、少なくとも私は、破壊的・墮落的な音楽ではなく、治癒的かつ楽しげな音楽の創造を希求したいと思った。

この一件と早朝に考えていたことは非常に似ている。作曲実践を通じて、兎にも角にもまずは自分の心を喜ばせることが大切である。それは作曲のみならず、絵画の創作にも当てはまる。自己を楽しませ、自己を喜ばせる音や絵の創出を第一にしていく。そうではない創作物は他者を意識したつまらないものであり、自己欺瞞の産物になってしまう。明日からもまた、自分の心が納得するものを生み出し続けていこう。

今日はふと父のブログを見た。愛犬との旅の様子を綴る父のブログを見ていると、いつも心が和む。愛犬はもう14歳を迎えた。人間の年齢で言えば、もう両親の年齢を超えて70歳ぐらいになるのではないかと思う。愛犬の投薬量が減ったという言及がブログでなされていた。それを知って嬉しかったのと同時に、ここ数ヶ月間、毎日遠隔治療として愛犬が元気になるようにエネルギーを送っていたことも貢献したかもしれないと思った。健康で長生きをしてもらうために、引き続き愛犬、そして両親に遠隔で気を送っていこうと思う。

いつも私はふとした時に、書斎の窓辺に歩み寄って、そこからバードウォッチングをする。それが好きなのだ。早朝にスズメを観察していると、あることに気づいた。スズメたちが隣の家のニコさんの庭の餌箱をつつき、餌がポロポロと地面にこぼれていた。夕方になると、スズメがつついて地面にこぼした餌をハトが食べている。昨日もその光景を目にし、とても微笑ましかった。つまりここでは、庭が存在し、ニコさんが存在し、そのニコさんが餌箱を設置し、そこに集まるスズメが存在し、彼らが餌をつつくという行為によってハトが恩恵を受けていることがわかったのである。そして、そうしたハトを眺めてニコリしてしまうという恩恵を受けている私がいる。

「ああ、この世界はこのように、存在と行為の連鎖的循環で成り立っているのだ」と思わず言葉が漏れた。今も試しに庭先を覗いてみたところ、昨日と同じ光景がそこに広がっていて思わず笑顔になった。今日は夕方にもスズメたちが餌箱を突き、地面にこぼれた餌をハトが食べている。存在と行為の連鎖的循環。自分という存在と自分がなす行為は、この世界の連鎖的循環に絶えず関与している。フローニンゲン:2020/5/5(火) 19:25